

# 資料編



## 1. 計画策定経過

年 月 日	内 容 等
平成 24 年 10 月	市民アンケート調査の実施 配布数 2,400 件 有効回収数 1,069 件
平成 24 年 8 月～平成 25 年 3 月	住民懇談会の開催 (71 箇所)
平成 24 年 12 月～平成 25 年 3 月	福祉団体意見交換会の開催 (31 箇所)
平成 25 年 5 月 31 日 (金)	第 1 回庁内ワーキング開催 計画概要・現計画の進捗・評価
平成 25 年 6 月 28 日 (金)	第 2 回庁内ワーキング開催 計画の基本的な考え方
平成 25 年 7 月 5 日 (金)	第 1 回社会福祉審議会地域福祉専門分科会開催 計画の基本的な考え方
平成 25 年 8 月 21 日 (水)	第 3 回庁内ワーキング開催 計画の目標像・施策体系ほか
平成 25 年 9 月 19 日 (木)	第 2 回社会福祉審議会地域福祉専門分科会開催 計画案について
平成 25 年 10 月 4 日 (金)	第 4 回庁内ワーキング開催 計画案についてほか
平成 25 年 10 月 24 日 (木)	第 3 回社会福祉審議会地域福祉専門分科会開催 計画案の修正について
平成 25 年 10 月 30 日 (水)	地域福祉シンポジウム～今、地域で求められるもの～ 日時：平成 25 年 10 月 30 日 (水) 13 時～ 16 時 会場：浜松市福祉交流センター ホール
平成 25 年 11 月 13 日 (水)	市議会厚生保健委員会への報告 計画案及びパブリック・コメント実施について
平成 25 年 12 月 16 日 (月) ～ 平成 26 年 1 月 16 日 (木)	パブリック・コメントの実施
平成 26 年 1 月 27 日 (月)	第 5 回庁内ワーキングの開催 パブリック・コメント結果について・計画最終案の検討
平成 26 年 2 月 6 日 (木)	第 4 回社会福祉審議会地域福祉専門分科会開催 パブリック・コメント結果について・計画最終案の検討
平成 26 年 2 月 20 日 (木)	市議会厚生保健委員会への報告 パブリック・コメント結果及び計画最終案の報告

## 2. 活動事例紹介

### ❖ (1) コミュニティソーシャルワーカー (CSW) 活動事例 ❖

コミュニティソーシャルワーカー (CSW) を配置し、地域福祉課題の解決に取り組む先進都市の事例を紹介します。

#### ①(福) 豊中市社会福祉協議会

大阪府の地域福祉支援計画に基づき、地域でのセーフティネットの体制づくりなど地域福祉推進の新たな担い手として豊中市社会福祉協議会に 14 人（生活圏域ごとに 2 名）のコミュニティソーシャルワーカーが配置されています。制度の狭間の問題など個別の課題に対応し、地域の課題として共有する場を設け、課題提起し、新たな支援方策を検討しています。

#### < 主な役割 >

福祉なんでも相談窓口*1 のバックアップ	地域福祉ネットワーク会議の運営
・ 社会的援護を要する人々への対応	地域福祉計画の支援・推進
・ 複数機関の連携による支援が必要なケース	セーフティネットの体制づくり
・ 公民協働でのサポートが必要なケース	要援護者に対する見守り・相談
・ 地域との関係調整が必要なケース	協働プロジェクトの開発

#### ◎相談フロー図



『平成 23 年度版 福祉なんでも相談窓口 コミュニティソーシャルワーカー配置事業概要』  
((福) 豊中市社会福祉協議会発行) より抜粋

※ 1 福祉なんでも相談窓口とは…豊中市地域福祉計画に基づき、豊中市と市社協が協働で小学校校区単位に身近な相談窓口を開設しています。日ごろから地域福祉活動に協力している民生・児童委員や校区福祉委員\*2などで市が指定する研修を修了した人たちが相談員を務め、解決が難しい相談は、担当のコミュニティソーシャルワーカーと一緒に相談に応じます。

※ 2 校区福祉委員とは…概ね小学校区単位に組織されている校区福祉委員会のメンバーです。校区福祉委員会は住民の自主的なボランティア組織で、市社協と連携して校区内の身近な福祉問題の解決に取り組んでいます。

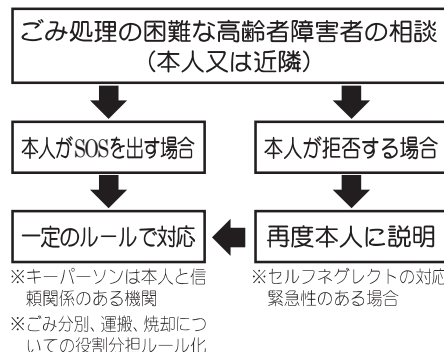
C S Wは個別事例を通して町の課題を把握し、新たな協働や仕組みで解決の取り組みを展開しています。

### < 福祉ゴミ処理プロジェクト >

高齢や障害、病気などの理由で自宅の片付けが困難になり、生活スペースすら確保できない状態の世帯から、処理についての相談が相次ぎ、地域ボランティアとともに片づけを行うことを繰り返していました。

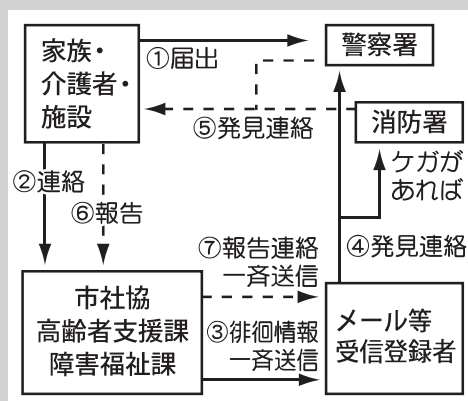
その中で、ゴミの分別、運搬、処理費用などについて課題が生じたことから、一定のルールが必要ということで、プロジェクト会議を提案することになりました。平成 17 年度に関係機関が一同に会し、処理についてのルールや実態について意見交換をしました。このプロジェクトの申し合わせに基づき、以降、大量ゴミの処理についてのルール化を図り、高齢者、障害者の支援を引き続き行いました。関係機関とルール化を図ったことにより、たくさんの相談が寄せられるようになっていきます。

#### < 一般的な支援方法 >



### < 徘徊SOSメールプロジェクト >

市内で若年性認知症の方が、孫を連れて行方不明になったという相談がありました。徘徊は多くの場合、家族の知らないうちに家を出て、あちらこちらを歩いてまわるので、時間が立てばたつほど検索範囲は広がってしまいます。近隣の人たちとのつきあいが少ない場合、徘徊している高齢者を見つけることは難しく、本人が動けなくなるなどしないと周りの人にも気づいてもらえません。そこで、平成 18 年度に徘徊SOSメールプロジェクトを立ち上げて、携帯電話を使って地域ぐるみでの安心ネットワークを作りました。



『平成 23 年度版 福祉なんでも相談窓口 コミュニティソーシャルワーカー配置事業概要』  
(福) 豊中市社会福祉協議会発行) より抜粋

### ・・・(福) 豊中市社会福祉協議会から学ぶ・・・

豊中市では、福祉なんでも相談窓口や校区福祉委員会、ボランティアをはじめとする地域住民の力を、コミュニティソーシャルワーカーが上手く引き出して課題解決にあたっています。課題を抱えた人も地域で暮らす一員であり、課題解決の先に地域に受け入れられて安心して暮らせる状態を見通せることが重要です。コミュニティソーシャルワーカーが関わることで、個別の課題を地域の課題として共有する機会をつくり、課題解決を通して地域の福祉力を高める、そのような活動のあり方は、今後の本市の事業展開においても参考にすべきものと言えます。

## ②(福) 新潟市社会福祉協議会

(福) 新潟市社会福祉協議会では、33名の職員がコミュニティソーシャルワーカーを兼務し、個別課題・地域課題・社会的課題に対応しています。また、他の一般職・専門職の職員にも研修を実施し、コミュニティソーシャルワーカーを中心にして社協全体でコミュニティソーシャルワークに取り組んでいます。

一方、新潟市でも福祉関係職員にコミュニティソーシャルワーカーの視点を持ってもらい、業務の中での気づきをコミュニティソーシャルワーカーにつなげ、課題解決に向け協働する体制づくりを進めるため、行政や保健福祉の専門職員を対象に地域福祉コーディネーター養成研修・フォローアップ研修を実施し、212名のコーディネーターを養成しました。さらに、地域のなかで地域活動の担い手を養成するため、コミュニティソーシャルワーカーの補助ができるような人材育成に取り組んでいます。

### < コミュニティソーシャルワーカーの活動事例：移動支援の開発 >

公共交通の利便性が悪く、通院手段の確保や買い物弱者への対応が課題となっていたことから「移動支援サービス立ち上げ準備会」を発足し、コミュニティソーシャルワーカーの呼びかけで地域内の福祉関係機関による協議の場をつくりました。

「透析患者通院支援検討会」では、当事者・病院・地域包括支援センター・区社会福祉協議会により検討を重ね、地元タクシー会社3社の協力で乗合サービスによる通院支援の仕組みが整いました。

また、民生委員・地域包括支援センター・公民館・保健師・地区社協による「買い物支援検討会」では、買い物の送迎や移動販売の導入に向け、関係機関・地元商工会と協議検討を行いました。

その結果、大手コンビニエンスストアによる移動販売がモデル的にスタート。モデル地区内11箇所を回り、福祉作業所授産製品とともにお弁当・お惣菜・パン・卵・乳製品など約150種類を販売することになりました。また、移動販売を行う場所を地元の商店前にするなど、地元の商店との共存共栄を図りながら、住民同士の見守り活動とも融合させて、高齢者の生活を地域で支える仕組みとして展開しています。



### ・・・(福) 新潟市社会福祉協議会から学ぶ・・・

さまざまな相談を受けるなかで、対応できる制度やシステムがない場合、担当者ひとりの力で相談者の問題を解決することはできません。そのような相談に対して、関係機関を交えた検討を行い対応できる制度やシステムを整備したことが、コミュニティソーシャルワーカーの活動を支える重要な基盤となっています。

ひとつの課題を解決するにはじっくりと時間がかかるかもしれませんが、関係者が知恵を出し合い、解決策を現実化していくプロセスをコミュニティソーシャルワーカー配置に係る仕組みとして組み込んでいくことが重要です。

また、行政職員や関係機関、福祉関係者にコミュニティソーシャルワーカーの役割やその活動の意義を理解してもらうことも、コミュニティソーシャルワーカーが活動していく上での環境整備として参考にすべき点と言えます。

## ❖ (2) 地区社会福祉協議会活動事例

市と（福）浜松市社会福祉協議会の共催により平成 25 年 12 月に開催した、第 36 回社会福祉大会では、『みんなで つながりづくり “まち” づくり』～チャレンジする町 三方原の 10 年～と題し、三方原地区社会福祉協議会の皆さんによる福祉活動の事例発表がありました。

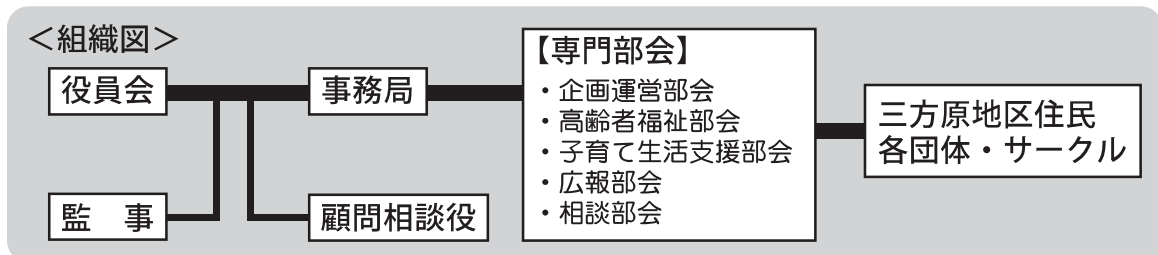
三方原地区は浜松駅から北へ約 7 キロ、初生町・根洗町・三方原町・東三方町・豊岡町・大原町・三幸町の 7 町で構成されています。18 自治会からなる人口約 3 万 3 千人の地域です。地区社会福祉協議会は平成 17 年 2 月に設立されました。

事例発表は、三方原音頭の披露にはじまり、続いて、三方原の開拓の歴史について、入植者の苦労など当時をしのぶ文献や石碑の映像を交えながら紹介いただきました。

その後、全体の活動説明、各専門部会の活動報告へと進み、高齢者ふれあい交流会の様子を映像とともに紹介いただきました。中学生は授業の一環としてふれあい交流会に参加し、高齢者の皆さんと一緒にレクリエーション活動をしたり、食事を取ったりしながら交流します。高齢者の皆さんが楽しみにしている行事となっています。

最後に、今後の活動展開として家事支援サービス事業化へ向けての取組みを報告いただきました。地域に根付いた地道な取組と新しい事業への挑戦、10 年の節目を迎えた今後の三方原地区社会福祉協議会の活動に期待します。

### < 三方原地区社会福祉協議会の活動紹介 >



### 専門部会の活動

#### ■企画運営部会

福祉講演会の企画・運営  
自立体力テストとトレーニング講習会の  
企画・運営などを実施しています。

福祉講演会



## ■高齢者福祉部会

高齢者ふれあい交流会の企画・運営  
一人暮らしの高齢者等を対象に初生・三方原・豊岡の3つの小学校区ごとに年2回開催しています。  
(北星中学校 みどり学級の生徒さんも一緒に参加してくださいました。)

高齢者ふれあい交流会



## ■子育て生活支援部会

初生なかよし会、小学校の託児支援  
「昔の遊び子ども広場」等の開催（地域の子どもたちに、けん玉・お手玉・おはじきなどの昔遊びの体験／第1・3土曜日）

昔の遊び子ども広場



■広報部会 三方原地区社協だよりの編集

■相談部会 ふれあい相談室(月2～3回「ボランティアコーナーふれあい」にて実施)  
くらしの心配事相談(よろず・人権・子育て)  
福祉・介護相談、遺言・相続相談

私たち三方原地区社協は、今年が設立後「10期目」にあたります。すべてが手探りの状態から始まり、試行錯誤を繰り返して少しずつ蓄積されてきた10年だと思っています。

現在、三方原地区社協では地域における生活支援を目的とした「家事支援活動」の事業化に向けて“チャレンジ”しています。地域内でのアンケート結果には、活動の必要性が高く、支援者として参加してもよいとの回答も予想を超える多さであり心強く感じています。今後は、関わっていただけそうな人たちと共に地域全体の取り組みとして進めていくことができればと思っています。

三方原地区社協の活動を地域の人たちに身近なものと感じていただき、より多くの方々と一緒に“次の10年・20年へのチャレンジ”ができればと思います。

❖ (3) 浜松市内の地区社会福祉協議会の概要 ❖

NO	区	地区社協名	設立日	ボランティアコーナー	サロンの開設数				家事支援サービス
					高齢者	子ども	複合全般	合計	
1	中	城北地区社会福祉協議会	H5.3.24	西部協働センター	7	1		8	有
2		富塚地区社会福祉協議会	H5.3.25	富塚協働センター	10	1		11	有
3		北地区社会福祉協議会	H6.2.10		5		9	14	有
4		東地区社会福祉協議会*	H12.12.10					0	
5		佐鳴台地区社会福祉協議会	H13.12.15	佐鳴台協働センター	5			5	有
6		江東地区社会福祉協議会	H14.2.22	東部協働センター	12			12	有
7		曳馬地区社会福祉協議会	H16.3.9	曳馬協働センター	11	2		13	有
8		西地区社会福祉協議会	H16.11.28	鴨江出張所	1	1	1	3	
9		江西地区社会福祉協議会	H17.3.9	江西会館	7			7	有
10		住吉・和合地区社会福祉協議会	H18.2.18	高台協働センター	4	1		5	
11		葵・高丘地区社会福祉協議会	H18.3.5	北部協働センター	4	1		5	有
12		萩丘中地区社会福祉協議会	H19.2.26	ピアゴ浜松泉町店	1	4		5	有
13	南	可美地区社会福祉協議会	H6.2.5	可美協働センター	2	1		3	
14		新津地区社会福祉協議会	H7.3.3	新津協働センター			7	7	有
15		芳川地区社会福祉協議会	H15.2.23	南陽協働センター	10	1		11	有
16		白脇地区社会福祉協議会	H16.2.10	白脇協働センター	1	4		5	有
17		河輪地区社会福祉協議会	H17.7.23	河輪会館	2	1		3	
18		飯田地区社会福祉協議会	H18.1.21	東部地区体育館	8	0		8	
19		五島地区社会福祉協議会	H18.1.29	五島協働センター	1	0		1	
20		東	蒲地区社会福祉協議会	H5.7.17	蒲協働センター	11	1		12
21	積志地区社会福祉協議会		H12.2.12	積志協働センター	6		3	9	有
22	笠井地区社会福祉協議会		H14.6.27	笠井協働センター	1	1	1	3	有
23	長上地区社会福祉協議会		H14.10.19	長上協働センター	9	7	7	23	有
24	和田地区社会福祉協議会		H18.3.5	和田地区自治会館	10			10	
25	中ノ町地区社会福祉協議会		H19.2.28	中ノ町地区自治会館	2		4	6	
26	西	入野地区社会福祉協議会	H8.3.22	入野協働センター	11		1	12	有
27		神久呂地区社会福祉協議会	H13.1.27	神久呂協働センター			1	1	有
28		篠原地区社会福祉協議会	H16.2.28	篠原協働センター	7	1		8	
29		伊佐見地区社会福祉協議会	H18.2.26	伊佐見協働センター	7	1		8	有
30		和地地区社会福祉協議会	H18.3.5	和地協働センター			5	5	
31		雄踏地区社会福祉協議会	H21.2.26	雄踏文化センター	9	1		10	
32		舞阪地区社会福祉協議会	H21.7.17	舞阪文化センター	5	0		5	
33		庄内地区社会福祉協議会	H22.3.25	庄内協働センター	5	3		8	
34	北	都田地区社会福祉協議会	H9.11.9				0		
35		三方原地区社会福祉協議会	H17.2.15	三方原協働センター	3	2	1	6	
36		引佐地区社会福祉協議会	H20.12.2		12	3		15	
37		細江地区社会福祉協議会	H21.3.26		14	6		20	
38		三ヶ日地区社会福祉協議会	H22.3.10		1		1	2	
39	浜北	浜名地区社会福祉協議会	H21.3.7		8			8	
40		北浜中地区社会福祉協議会	H21.3.2		3		1	4	
41		北浜東部地区社会福祉協議会	H21.3.2		6			6	
42		中瀬地区社会福祉協議会	H21.3.17	中瀬協働センター	7			7	
43		赤佐地区社会福祉協議会	H21.3.3		4			4	
44		鹿玉地区社会福祉協議会	H21.3.15	鹿玉協働センター	5			5	
45		天竜	二俣地区社会福祉協議会	H19.8.1		4		1	5
46	光明地区社会福祉協議会		H19.6.13		6	1		7	
47	竜川地区社会福祉協議会		H20.1.16		4			4	
48	熊地区社会福祉協議会		H19.7.24		4			4	
49	上阿多古地区社会福祉協議会		H19.11.19	清流荘	11			11	
50	下阿多古地区社会福祉協議会		H19.8.23		5		1	6	
51	春野地区社会福祉協議会		H22.2.1		22			22	
52	佐久間地区社会福祉協議会		H22.1.28	佐久間ヘルストピアセンター	5	1	14	20	
53	水窪地区社会福祉協議会		H22.2.27		5			5	
54	龍山地区社会福祉協議会		H22.3.7		5		7	12	有

\*平成 26 年 4 月からアクト地区社会福祉協議会へ名称変更

平成 26 年 3 月現在 (ただし、サロンの開設数は平成 25 年 4 月現在)



## ❖ (4) 企業の社会貢献 (CSR) 活動事例 ❖

### ① はあとねっと輪っふる (埼玉トヨペット株)

全国には、福祉分野における社会貢献 (CSR) 活動に熱心に取り組む企業があります。埼玉トヨペット株では、「はあとねっと輪っふる」を平成 14 年に立ち上げ、ノーマライゼーションの理念のもと、様々な活動を展開しています。その取組みは、「平成 19 年度バリアフリー化推進功労者表彰」内閣府特命担当大臣表彰優良賞の受賞をはじめ各界から高い評価を受けています。

#### < はあとねっと輪っふる誕生の経緯 >

平成 13 年 10 月、埼玉トヨペット株では本社 1 階ショールームの半分を利用して福祉車両を展示するウェルキャブプラザをオープン。ウェルキャブプラザの有効活用を模索していたとき、街のバリアフリー化を推進するグループ (OMIYA ぱりあフリー研究会) の代表と出会い、「グループでミーティングをしようにも車いすで行ける場が少ない」「障がいの有無にかかわらず、ともに交流して情報交換ができる機会があれば…」という話を聞き、ショールームを活用する構想につながりました。



その後、OMIYA ぱりあフリー研究会と 30 回以上のミーティングを重ね、平成 14 年 4 月 1 日、埼玉トヨペット株本社 1 階のショールーム内に「はあとねっと輪っふる」が誕生しました。

#### < はあとねっと輪っふるの活動 >

はあとねっと輪っふるの行事や活動は、毎月定期的に行われる世話人会議で決められます。世話人会議は、はあとねっと輪っふるの活動に賛同している各団体の代表 (OMIYA ぱりあフリー研究会、高齢者問題に取り組む「シニアライフ研究会」、子育て支援の「NPO 法人彩の子ネットワーク」など) や個人で構成されており、埼玉トヨペット株もそのメンバーの一員です。はあとねっと輪っふるの主な活動として次のようなものがあります。

#### 農業体験

障がいのある人達に農業の体験をさせてあげたいと考え、田植え・稲刈り・野菜の栽培を行っています。途中から子育てやシニアのグループも加わり、一緒に農業体験を楽しんでいます。また、50 坪の畑を借りて、就労を見据えた作業訓練を行っています。



#### パン販売

障がいのある人と一緒に、本社や埼玉県内 3 箇所の拠点でパン販売を行っています。

#### 福祉車両モニター

埼玉県内在住の介護が必要な人、障がいのある人を対象に、3 箇月間無料で福祉車両の体験をしてもらい、その声を福祉車両の開発に役立てています。

## 輪っふるギャラリー



本社 1 階ショールームの一部を開放し、県内の施設・特別支援学校や個人の方に最長で 1 ヶ月間無料で貸し出し、作品などの展示を行っています。

## 就労実習

埼玉トヨペット㈱では、社会貢献課の他、中古車販売拠点や関連企業にて特別支援学校の生徒及び県や市の障がい者就労支援施設の就労実習の受け入れを積極的に行っています。はあとねっと輪っふるは、就労実習生の受け入れにかかる段取り等を調整しています。



### < 埼玉トヨペット(株)の取組み >

埼玉トヨペット㈱では、CSR・環境部社会貢献課に「はあとねっと輪っふる」の担当が 6 名おり、社会貢献の業務に専念しています。ショールームの一角や、ウィークデイの会議室を地域の団体に貸し出すだけでなく、それらの団体と一緒に様々な活動をする事で、はあとねっと輪っふるの活動が広がりを持ってきました。

また、新入社員が研修で「はあとねっと輪っふる」の活動に参加するなど、障がいのある人もない人も共に働き、学び、暮らす社会に向けて、まずは一緒にいることからはじめよう…という社長の強い思いが会社全体に浸透し、企業活動の新しい価値として発信されています。

### …はあとねっと輪っふるから学ぶ…

地域から信頼され貢献する企業市民を目指し CSR 活動に取り組んでいる埼玉トヨペット㈱。結果や成果が直ぐに現れにくい「福祉」に対し、経営陣たちが『投げかけた石の波紋は見守り続けるという「ぶれない方針』を明確に示したことが、全社員を挙げた取り組みまでに成長・発展した一番の理由に挙げられます。

1990 年代のバブル経済の崩壊、そして、2008 年に起こったリーマンショックによる経済不況など、浮沈を繰り返す日本経済にあっても、企業の CSR 活動の取り組みは、年々拡大傾向にあり、浜松市内の多くの企業も清掃・環境分野などに積極的に取り組んでいます。その活動を「福祉」にも広げていくためには、「やらまいか精神」に代表されるように、企業や経営者の皆さんがチャレンジしたくなる制度の構築に加え、福祉の現場や地域で求められている活動や活動事例等の情報提供などを推進していく必要があります。

## ②浜松市内の企業のCSR活動

地域に何らかの形で貢献したいと考える経営者は、浜松の企業の中にもいます。そんな一例として、地元の萩丘中地区社会福祉協議会に店舗の一角を提供しているユニー株式会社ピアゴ浜松泉町店の取組みについて、ピアゴ浜松泉町店の市川店長、萩丘中地区社会福祉協議会の阿久津会長のお二人にお話をお伺いしました。

### <経緯>

平成24年12月、萩丘中地域ボランティアコーナーは、少年スポーツ練習センターの閉館に伴い移設を余儀なくされていました。地域ボランティアコーナーを運営していた萩丘中地区社会福祉協議会では地域内の他の施設に開設場所を求めましたが、適当な開設場所が見つからず思案に暮れていました。

地域ボランティアコーナーは、地域で福祉に携わる様々な団体が活動・情報の拠点として利用できる場所であり、萩丘中地区社会福祉協議会にとっても、活動の拠点として必要な場所です。

そんな時期、新装開店することになったピアゴ浜松泉町店で、店舗の一角を貸してもらえることになりました。

阿久津会長は「駄目でもともと、と思い切って相談に行ったら格安でお貸しいただけることになった。水道光熱費も負担していただける他、事務スペースだけでなく、近くの廊下やキッズコーナーの休憩用ベンチも使ってよいと言っただき、とても感謝している。お店の一角をお借りできたことで、地域の皆さんが気軽に立ち寄れる交流の場にできるのでは」と期待しています。



### 【萩丘中地域ボランティアコーナー】

平成25年6月、ピアゴ浜松泉町店2階の一角に移転しました。週2回、萩丘中地区社会福祉協議会のメンバーが来て、地域住民の相談を受け付けています。

### <ピアゴ浜松泉町店の取組み>

このように地区社会福祉協議会が店舗の一角に入るとするのはピアゴでは初めてのケースです。本部からは賛否両論の意見が出ましたが、「地域の皆さんとともに作り上げる店舗」という基本方針を実現するため、直接の収益とは関係がない地区社会福祉協議会をテナントの一つとして迎えることになりました。そこには、「地域の皆さんに来ていただかないと売上も上がらない、地域の皆さんに足しげく通っていただけるお店にしたい。」という市川店長の強い思いがありました。



### 【ピアゴ浜松泉町店】

1階は生鮮食品と住まいの用品、2階は衣料や書籍などの専門店が入り、地元のお客さんで賑わっています。

新装開店する以前から地域密着のお店として38年間営業してきたピアゴ浜松泉町店では、「地域の活動にも企業として参加できることがある」という考えから、浜松まつりや高台発展会の夏まつりの際の場所の提供や、地元自治会活動への協力（ごみ集積所の設置等）、校外学習の一環として小学校が実施するお店探検の受け入れなど学校行事への協力を通して地域とのつながりを大事に育ててきた歴史があります。店舗の敷地の一角にある「ピアゴミニガーデン」は、そんな「地域の方々と一緒につくるお店」というコンセプトが目に見える形になったものと言えます。



### 【ピアゴミニガーデン】

小学校・自治会・老人会の皆さんと一緒に季節の花を植えています。みんながつくるショッピングセンターを目指し、地域との交流を大切にしています。

### < 話すことで広がる活動 >

阿久津会長は「地域福祉は形があるようでない。だから、いろいろな人と話し合うことで活動が広がっていくのではないだろうか。場所を貸してもらえることを当たり前とは思っていないが、そんな話を持っていけるような信頼関係があったことが大きいと思う。」と言います。また、市川店長からも「地域の役に立ちたいというのは企業側にもあるが、具体的に何ができるかは知っていそうで知らない。目に見えるアイデアがあれば実現しやすい。それには、お互いにコミュニケーションが取れることが大事では」というお話がありました。

今後の新しい展開としては、ピアゴ浜松泉町店の新聞折込チラシ（2万～4万部）のお知らせスペースを利用して萩丘中地区社会福祉協議会の情報を掲載してはどうか、というアイデアが出ています。

また、サービス介助士の資格を持つ市川店長には、これから高齢化が益々進んでいくなかで、車イスで来店する方にも安心して買い物をしていただけるよう、介助の講習会を開催してはどうか、というアイデアもあります。地域の他の企業に参加を呼びかけて、「地域の皆さんが世代を超えて助け合うことを支援できたら」と思いがふくらみます。

お二人のお話を伺い、場所の提供に終わらない様々な新しい取組みの予感を感じました。企業には当然、できること、できないことがあります。それは、お互いが胸襟を開いて話し合う中で初めて見えてくること。地域福祉活動のパートナーとして、そんな話し合いのテーブルについて貰えるよう企業に呼びかけていくことが、行政の役割として重要だと感じました。

## ❖ (5) 居場所づくり活動事例

平成 26 年 3 月 1 日現在、浜松市への NPO 法人の登録数は 230 団体、また、(福)浜松市社会福祉協議会へのボランティア団体の登録数は 437 団体です。地域福祉を進めるためには、地域住民や NPO 法人、ボランティア団体など様々な主体による支え合いの活動が大きな力となります。

そんな活動の一つとして、地域の住民が主体となって運営し、誰もが自由に集い、自由に過ごせるふれあいの居場所、「オープンカフェきじの杜」を紹介します。

### < 概 要 >

「オープンカフェきじの杜」は、平成 23 年、総合福祉施設「きじの里」の開館時に、施設の一角にオープンしました。

カフェはガラス越しに、外から中の様子が伺えるオープンな雰囲気。施設の一角にあることから、施設に入所する人も、地域の人も訪れることができる交流の場となっています。



### < 活動内容 >

一般のカフェとの違いは、地域で暮らす人のお互いの顔が見える関係づくりのお手伝いをしていることです。「困ったこと掲示板」は、お客さん同士の交流を進める工夫の一つです。さらに、「体操教室」や「歌おう会」、絵や書道など趣味の発表の場となる「きじの杜ギャラリー」等を開催し、訪れる人の生きがいづくりの場ともなっています。

運営主体である NPO 法人ねっとわあくアミダスの脊古理事長は、「ひきこもってしまうか外に出るかはほんの少しのきっかけで変わる。」と言います。単身世帯が増加し、地域のつながりが希薄化するなか、誰でも自由に訪れることができ、人とのつながりが持てる「居場所」は、インフォーマルな支え合いの場として注目されています。

また、脊古理事長は、「定年退職後の皆さんのなかには、持っている知識や経験を活かして働きたいという人が結構いる。何か形にできないかと考えている。」と話します。実際に、「オープンカフェきじの杜」をきっかけの場として、訪れる人たちの経験や特技を活かした試みが一歩二歩と歩みを始めています。人とのつながりが新しい可能性を生み出す、そんなわくわくする楽しさが居場所にはあると言えます。



### 【オープンカフェきじの杜】

◎運営主体：NPO 法人ねっとわあくアミダス

◎活動日：月～金（9：30～16：30）  
※土日、祝日、年末年始はお休み

◎住所：〒434-0046  
浜松市浜北区染地台 5-4-3

◎TEL：090-1784-8151

◎URL：  
<http://www17.ocn.ne.jp/~amidasu/>